保育

紙芝居の生かし方

——實演といふ事について——

砥上峰次

保育の上に紙芝居を取入れる方法は、色々あります。即ち作品として供給されたものを子供達に見せる。子供達お互に實演發表させる。我々の手で、又は子供と協同して、或は素朴な兒童畫で描いたり、塗繪したり、切紙で貼る。其の素材の取り方にも色々な角度から色々な方法が考へられます。

其の作る、作らせる方面は又別の機會にして、今最も一般的に普及利用されてゐる既製作品を保育上の教具として如何に取扱ひ、生かすかといふ點を考察して見ます。

詳細に述べますと紙芝居の構成から演技、裝置一般に亙り非常に複雜なものになりますが、誰にでも、何時でも、何處でもやれるといふ點から、全然初めての人々にも、直ぐに役立つ所謂一般的に言へば實演入門、保育上の取扱の基礎について考へて見ます。

誰にでも、簡易に出來る紙芝居の實演が、其の容易さの故に、輕擧な取扱になり易い事は最も注意しなくてはならない點で、其の爲には一應紙芝居の構成を考察しなくてはなりません。

紙芝居は繪畫とせりふが出來て居り、それを舞臺に入れて實演をする。即ち基本的な要素は、繪とせりふ（説明）と實演、それを用ひる舞臺です。

繪とせりふは既製のものでは相當周到な注意が拂はれて作られてあり、對象に應じて或程度の説明を變へるとしても、繪は決定的なものですから一寸手は出ません。

然し實演は、作品として出來上つてゐるものを使ふといふ事で、最初から大きな制約の下にあるとはいへますが、如何に藝術的に而も指導性を持たせて作られた繪畫的、文學的要素機能も、只それ丈では效果は上げ得ないので、之が實演される事によつて、此の二つの要素が巧に結合してより綜合的な藝術性をかもし出すものである事は紙芝居の

實演の最初から最後迄考へられなくてはならぬ重大な事であり、これは紙芝居の根本的理解に關するこゝです。

紙芝居を創作するものは、繪の變化、説明その間の連絡融合を嚴密に吟味して行きますが、其の時基準となるものは、實演技術であり、實演される時の效果を豫想してかゝつてゐるのです。

玆に私は端的に言ふ繪噺と紙芝居の區別を無理に考へて見たいのですが、此の場合の繪噺といふのは、繪の理解、鑑賞の爲の説明であり、話の補足としての繪であつて、視覺的效果と聽覺的效果は獨立して、何れかゞ重視されるか、何れも同等に考へられるのであると、獨斷かも知れませんがさう規定する。そして紙芝居は、繪と言葉は獨立せず渾然一元化してより高次の綜合的效果を期待してゐるものと考へたいと思ひます。繪畫と文學の持つ藝術性を、一層立體化して演劇的藝術性にまで導いて行くのだと考へていただきたいのです。

この事はたとへ對象が幼兒であるにせよ、紙芝居自體から言へば一般的に言へる事です。

紙芝居の實演がかうした重要なこゝである事をまづ念頭に置いて技術について述べる所を、研究して見ていたゞく事にしませう。

× めくり方 ×

紙芝居の繪そのものは動かない。而も之を動的に感じさせ、人間の感情をゆり動かして行かうとする。それは紙芝居の構成に於て、夫々具象的に表現され、それが生命ある如く感じさせ、本來能動性を持つ樣に不自然なく感じさせる樣に出來てゐる事は勿論重要ですが、あの舞臺の中に一つの世界が形作られ、見てゐる者は、言葉を繪によつて知り、感じ、常に暗示によつて發展的に想像を働かせて進んで行く。こゝで重大なのは畫面と説明をどうして間隙なく融合させて進めるかは、技術的には畫面の變化——めくり方にかゝつて來るといふこゝです。紙芝居が作製される時は、場面々々の事情に應じ、普通に、靜かに、ごく靜かに、急に、稍ゝ急に、最も急に、めくりつゝ(言ひながら)中途迄、中途で止める、紙をめくる、サシコミをめくる、等、嚴密な指定をして行きます。紙芝居の實演で、言葉、抑揚、テムポは勿論重要ですが、このめくり方が如何に根本的なこゝであるかは、まづ他の人の巧拙二種の實演を見られるこすぐ感じられる事です。

殊に小さい子供達は、與へられた材料(展開された今の世界)に從つて、その中に入りこみ、今迄に收得した種々の想像經驗の世界の中から色々のものを引出しては、次々に想像の世界を發展させて行つてゐるのです。劇的な構成から言つても、此の子供達の心理的な活動から言つても、實演

に當る人の第一に注意すべき事はめくり方で、これも紙芝居構成とそれに伴ふ技術の研究の根本的事項です。

× 舞臺と實演の場所 ×

舞臺は紙芝居になくてはならないもので、これは一つの別の世界を作り出して來るのです。この舞臺の裏にすつかり姿をかくす方法と、從來一般の方法として見られる側に立つ方法とあります。幼兒の爲の實演には、子供達と一しよに見ながら說明しつゝ(說明といふ言葉の感じは紙芝居の實演の場合ピッタリしませんが)操作するのが無難な樣です。それは子供達は先生や實演してくれる人への信賴が强く、姿が見えないと不安といふか落つきを持ちにくいといふ感じがある樣に思へます。

然し一般の人々には純然たる紙芝居の鑑賞の爲に——心理的に注意の集中からも——姿をかくす方がよいので、姿をかくして而も尙見る人々が決して退屈せず、紙芝居の世界に入り切る樣に又構成を考へて作つて行くわけです。

特殊な場合、卽ちその紙芝居で何事を强く知らせようとか、記憶させようとかする場合は側で徹底的に取扱ふこともありますが、一般の場合は側に立つても子供の注意圈內にゐる事が必要で、あまり舞臺から離れると、どうしても實演する人の顏、口元に注意を拂ひ見てゐる子供達の目の運動も大きく、紙芝居の世界にすつかり入りこめないといふ事になります。又紙芝居をやりながらゼスチュアは禁物です。

私は幼兒には、幼兒の心理に卽した內容と構成を持つた紙芝居を作り、裏にかくれて、全く紙芝居に見とれる、その世界の人になり切つて了はせ、その中に人間的な又藝術的な感動と感受を與へる事も必要であると思ひます。極端に言へば側に立つてやる紙芝居とかくれてやるそれとは又自ら構成が別になるとさへ考へてゐます。

殊に幼兒に精選された言葉を與へるといふ意圖を持つ時、裏に正確な記入をなして置いて的確に之を感得せしめようとする場合、又特に伴奏を用ひる場合、殊にうるはしい雰圍氣をかもす爲の名曲伴奏等の時、紙芝居だけに子供達を對せしめる事はよい事で、これが爲人格的接觸が減殺される云々といふ事はない筈です。

× 練習方法 ×

今の紙芝居は繪があり裏に說明がついてゐる爲、或程度迄誰でも出來ますが、これでといふ處迄は仲々達しにくいとは誰しも感じてゐられる事でせう。鍛錬すればする程上達します。それは紙芝居を根本的に理解して來るからです。

尤も紙芝居は人と人との接觸の媒介となり實演する人が對象の性質をよく知つて時宜の取扱をなす、作品を充分理解する事は紙芝居による保育等では特にその意味で重要で

す。然し紙芝居實演技術自體はその效果を一層高めるものですから前述のめくり方用ひ方を注意して練習し、良心的に子供に與へて行くべきであります。

まづ人にやらせる事も參考になりますが、說明をよく研究し、次には、鏡の前等でめくりつゝ實演し、初め少數の人々に見せて大體よいといふ處で大勢に見せる迄に注意して行かねばなりません。

× 用ひ方 ×

一種の作品でも、取扱方で何回でも同じ子供に見せて夫々別の興味を持たせ得るものです。

單純な實演、唱歌に合せる。リズミカルな調子にする。先生と子供とで役を持つ、子供達にやらせる、色々ありませう。

子供達に語らせ、めくらせ、先生は子供の席に入りこんで一しよに見るといふ樣な場合、何とも言はれないよろこびを持つものです。

實演の前に場內整理をする、實演場所を、子供の人數、光線によつて考へる、後の掛圖等を外して邪魔にならぬ樣にする等、これは紙芝居の效果を擧げると共に、さうした先生の周到な注意は作品と子供達に對する大きな親切です。

實演の音聲、調子、アクセント、斷續、發音等は幼兒の言語訓練上特に重要視して夫々の方針に基き考究されなくてはならない問題です。

實演の前の取扱、實演後の取扱、反響感銘テスト等も保育上の取扱としては重要ですし、又室內、屋外、野外に持ち出して、或は談話の中に、唱歌に、自由遊びの中に色々な場合、夫々の方法で紙芝居は生かされる道はいくらでもある筈です。

子供達に作らせる、塗らせる、切貼させる事による紙芝居の構成を眞劍に研究する時、更に保育の方法としての紙芝居の使用の範圍は擴まり、價値は愈〻大きなものがあります。此の事は已に實證されてゐる事です。

紙芝居の感銘調査、紙芝居を見る觀衆としての子供の心理、幼兒紙芝居の繪と言葉等詳細述べますと幾多興味ある問題もありますが、今回は所謂、手元の紙芝居を生かして使ふ上の事項を簡單に述べる程度にとゞめました。

（日本教育紙芝居協會主事）